

# 学会記事

## 2020年度第6回執行理事会議事録

期日：2020年11月14日（土）10:00～15:10

### 【WEB 会議】

出席者：磯崎会長・佐々木・中澤・緒方・亀高・辻森・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋

欠席者：平田・ウォリス・岡田

事務局 澤木

\*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者14名、委任状3名、合計17名の出席

\*前回議事録（205回）の確定。

### 報告事項

#### 1. 全体的報告

1) 名古屋大会の代替企画について（状況報告）

①支部・部会単位の学術発表会：

・構造地質部会オンライン例会開催報告（濱田）若手を対象としてライブ形式の口頭発表が行われ、82名が参加した。学生優秀発表賞として3件を顕彰した。盛会であり今後の参考になる良い集会であった。

・四国支部例会開催（オンラインでの実施することに決定）

②ジュニアセッション（デジタルポスター）（高嶋）：16校18件の発表に対して審査を行い、優秀賞3件、奨励賞4件を選出した。例年並みの応募数であった。レギュラー校だけでなく新規参加校もあった。全体に優れた研究発表が多かった。

③地質系若者のためのキャリアビジョン誌（坂口）：編集中。今月中の発送を目指す。

④第2回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」（星）：11/29（日）に開催予定。HPに開催情報掲載済。第3回も検討中。

⑤JABEEオンラインシンポ（佐々木）：予定通り準備中。

⑥第二回ショートコース（星）：100名近くが参加して成功裏に終了した。質疑も活発であった。参加者アンケートでも好感度であり今後も継続する方向があらためて確認された。具体的なスケジュールや担当者を検討する。

2) 名古屋大会“市民講演会「動物の進化を探る-古生物学の世界-」および地質情報展2021あいち”に対する科研費を申請した（11/5締切、採択結果は2021年4月通知予定）。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

#### 1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

・令和2年福島県教育委員会学芸員（自然）採用選考予備試験が実施予定であったが、中止となった旨通知があった。

・消防庁より、令和3年度「消防防災科学技術研究推進制度」における新規研究開発課題の募集があった（12/23締切）（→ニュー

ス誌、geo-flash掲載）

・令和2年度自然史学会連合講演会「九州北部から広がる自然史研究：化石からランまで」（12/6、場所：北九州市立いのちのたび博物館）の開催案内があった。（→geo-flash掲載）

・原子力環境整備促進・資金管理センターより、放射性廃棄物の地層処分に係る萌芽的・基礎的研究テーマ及び研究実施者の募集について、締切延長の連絡があった（11/9に締切延長）→（→geo-flash掲載）

・地学団体研究会より、声明「高レベル放射性廃棄物の地層処分について第三者委員会による国民的・民主的な議論を求める」（11/8付）の連絡があった。

<会員>

1. 今月の入会者（3名）

正会員（1名）：富永満生

正（院割）会員（2名）：陳翔羽、田中湧朔

2. 今月の退会者（なし）

3. 2020年10月末会員数

賛助：27、名誉：43、正会員：3369〔正会員：3282、正（院割）会員：84、正（学部割）会員：3〕、合計3439（昨年比-174）

<会計>

・地質学会監修の宝島社「やばすぎ！古生物図鑑」（韓国語翻訳版）の著作権料の入金があった。少額のため、著者らの承諾を得て、学会（出版事業費）への寄付としていただくこととなった。

<その他>

・10月報告時に引き続き、各主担当を決めて下記の運営改善策を検討中、12月の執行理事会・理事会に検討中内容の報告を予定。

・事務局契約職員（白木玲子氏）について、雇用条件を一部変更して来年1月よりさらに1年間契約を更新する予定。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

・発行誌ジュ 2020年後期号（通巻18号）が発行となった。11月号雑誌とともに会員に配布予定。

・地質学会のSNS活用について検討する。

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

・名古屋大会代替企画（→全体報告へ）

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

・部会規則整備について検討中。

3) 国際交流委員会（ウォリス）

・台湾地質学会とのMOU書式を台湾に郵送した（11/4）。今後オンラインセレモニーの実施等について台湾側と相談して進める。

4) 地質標準化委員会（辻森）

・ICS 国際年代層序表の最新日本語版（v2020/03）を作成し、学会HPを更新した。前回からの変更点は、古第三系/紀の階/期の「プリアポニアン」にGSSPが定められ、その下限が37.8 Ma から 37.71Ma になった。

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1) 地質学雑誌編集委員会（大藤）

(1) 編集状況報告（11月10日現在）

・2020年投稿論文：70〔内訳〕論説37（和文37）、レター11（和文9・英文2）、総説3（和文3）、ノート3（和文2、英文1）、報告7（和文6、英文1）、口絵1（英文1）、巡検案内書8

査読中：33 受理済み：20（うち特集号6案内書2）

・126巻10月号：通常号 論説2篇、レター2篇、口絵1篇（約55頁、発行済）

・126巻11月号：通常号 論説2篇、レター2篇、報告1編、ノート1編（約50頁、校正中）

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

・年間投稿数は順調に推移している。査読日数の短縮、特集号の進捗を促進させるなどきめ細かくケアしていく。

3) 企画出版委員会（小宮）

特になし

6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）

1) 地学教育委員会（高嶋）

・ジュニアセッションについて（→全体報告へ）

2) 地質技術者教育委員会（佐々木）

・JABEEオンラインシンポジウムについて（→全体報告へ）

・JABEE地球・資源分野の運営組織の変更については、幹事学会である資源・素材学会で検討を継続中とのこと。その結果にもとづき、分野運営委員会を開催したのち、資源・素材学会から正式に当学会に提案があるとのこと。

・2020年度JABEE継続審査の地球・資源分野の審査員らについて、当学会から推薦した候補者について、委員就任の内諾打診が資源・素材学会から行われた。

3) 生涯教育委員会（矢部）

・2022年の国際鉱物年についての取り組み：（公財）益富地学会館が毎年開催している「石ふしぎ発見」展の特別展として、「国際鉱物年」を冠したイベントが2021年秋に開催できないか検討中であり、地質学会としても協力する。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会

1) 利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（平田）

・白山手取川ジオパークのユネスコ世界ジオパーク国内推薦が決定した。（現在、日本ジオパーク43地域（うち世界9））

・ジオパークコンソーシアム設立検討会議（10/5開催、天野委員長・利光委員出席）があった。天野委員長から、今後の立ち上げスケジュールなどが示された。学会が正式にコンソーシアムに参加するかどうかは、今後、設立検討会議で議論される組織の位置付け、運営方針などをみながら改め

- て検討することとした。
- 2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)
    - ・一次、二次試験はオンライン実施。本選はつくばで開催予定。
  - 3) 支部長連絡会議 (平田)
    - ・関東支部「オンライン講演会-おうちで学ぶ恐竜研究の最前線-」(12/12 開催予定、講師：高栗祐司氏・田中康平氏)
  - 4) 地質災害委員会 (松田)
    - ・学術フォーラム・防災連携シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」(日程：2021年1月14日)開催案内。ニュース誌、HPでも会員に周知する。
  - 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)
    - ・階層別委員の選任について (→審議事項へ)
  - 6) 各賞選考委員会 (中澤)
    - ・月末締切で応募中
  - 7) 男女共同参画委員会 (委員長 堀 利栄；代理 中澤)
    - ・男女共同参画委員会規則変更の提案 (→審議事項へ)
  - 8) 法務委員会 (中澤)
    - 特になし
  - 9) 連携事業委員会 (中澤)
    - 特になし
  9. 研究委員会
    - 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)
      - 特になし
    - 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)
      - 特になし

#### 審議事項

1. 2020年度事業報告 (案)・2021年度事業計画骨子 (案)
 

磯崎会長から原案が示され、方針の詳細が説明された。各部会の内容を確認する。今後は若手や女性の人材育成と登用に積極的に取り組む。
2. 執理事会の成立要件に関わる理事会規則変更の提案 (佐々木)
 

執理事会に関する理事会規則について、執理事会の定足数を理事会と合わせて構成員の過半数とし、委任は認めないこととして出席者の過半数をもって議決するとの変更案が提案された。本規則はガバナンスの問題から理事会規則に一致させる必要があるとの説明があった。さらに、現状WEB会議が主流になって出席率の向上があるため、執理事会の運営に問題は起こらないことの補足説明があり原案通り了承された。
3. 名誉会員推薦委員会の階層別委員の選任 (佐々木)
 

推薦委員会階層別委員の候補案が提案され、原案通り了承された。
4. 100周年記念誌「日本の地質学100年」の再販売価格についての提案 (緒方)
 

日本地質学会100周年を記念して制作された「日本の地質学100年」は、100周年記念の寄付者に寄贈配布および有償配布されてきたが

- 120部の在庫となっている。優れた書籍であるので3,000円 (送料込み) の価格で再販売したいと提案があり、原案通り了承された。
5. 表彰制度の見直しについて (磯崎会長)
 

継続審議となっている表彰制度の見直しについて、全体のバランスと各賞の位置付けの詳細を議論した。新しい表彰制度に移行するための運営規則および選考規則の改正手順と日程を確認した。次の理事会で審議する。
6. 行動規範について
 

日本地質学会行動規範が2011年に制定されて約10年が経ち、この間の社会や会員の動向に合わせて改定する方向性が議論された。法務委員会に検討を依頼する。
7. 男女共同参画委員会規則変更の提案 (中澤)
 

多様な背景を持つ会員が活躍できる環境づくりを推進する主旨に合わせて、男女共同参画委員会規則の変更が提案された。理事会にて審議することとした。
8. 理事会審議事項の確認
  - ①総会の日程について (6月第2週あたりで検討する)
  - ②2020年度事業報告 (案)
  - ③2021年度事業計画骨子 (案)
  - ④名誉会員推薦委員会委員の選出・承認
  - ⑤専門部会規則の制定について
  - ⑥理事会規則の変更
  - ⑦男女共同参画委員会規則の変更
  - ⑧表彰制度の見直しについて (運営規則、各賞選考規則改正)
  - ⑨その他
9. その他
  - ・第1回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」を受けて、デジタルデバイスを用いた理科教育の充実のために、教材向けのデジタルコンテンツのアーカイブ化と公開方法を検討する。

以上

2020年12月5日  
一般社団法人日本地質学会執理事会  
会長 (代表理事) 磯崎行雄  
署名人 執行理事 中澤 努

### 2020年度第7回執理事会議事録

期日：2020年12月5日 (土) 10:00～12:30

#### 【WEB会議】

出席者：磯崎会長・平田・佐々木・中澤・緒方・亀高・辻森・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋・岡田・ウォリス

欠席者：なし

事務局 澤木

- \*定足数 (12, 委任状含む) に対し、出席者 17名、委任状0名、合計17名の出席
- \*前回議事録 (20-6回) の確定。

## II 報告事項

### 1. 全体的報告

1. 名古屋大会の代替企画について (状況報告)

- ①地質系若者のためのキャリアビジョン誌 (坂口)：25社 (賛助会員8) 参加。フルカラー 28頁冊子を作成。43大学48機関へ2120部を発送した。黒字発行となった
- ②第2回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」(星)：11/29 (日) に開催。配信当日の視聴回数：211回。各発表動画をYoutubeで公開中。
- ③JABEEオンラインシンポ (佐々木)：予定通り準備中。

2. 運営財政部会 (緒方・亀高)

#### 1. 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

- ・令和2年福島県教育委員会学芸員 (自然) 採用選考予備試験実施の通知があった (締切12/23) (→geo-flash掲載)
- ・三菱財団より2021年度助成金 (自然科学研究助成ほか) 公募のお知らせがあった (→ニュース, geo-flash掲載)
- ・深田地質研究所より「2021年度深田研究助成」の公募のお知らせがあった。(締切21/2/5) (→ニュース, geo-flash掲載)

<会員>

1. 今月の入会者 (1名)
  - 正会員 (1名)：林 宏樹
2. 今月の退会者 (なし)
3. 今月の逝去者 (なし)
4. 2020年11月末会員数

賛助：27, 名誉：43, 正会員：3372 [正会員：3283, 正 (院割) 会員：86, 正 (学部割) 会員：3]  
計 3442 (昨年比-168)

<会計>

特になし

<その他>

- ・総務委員会にて運営財政上の課題 (会員管理へのクラウドシステム導入案、収支改善策、会員増加策) について検討を進めている。また他学会行事支援形態について概定された。(20-4理事会議事録参照)
- ・収支改善策、会員増加策について、学生、院生の会費の大幅削減や、雑誌の電子化、在会のメリットなどいくつか意見交換があり、いずれも総合的な検討と早急な対策が必要であることが再確認された。タスクフォース (TF) を設置し、財務状況の試算を含めて、来年3月までに具体案を示す。
- ・事務局の白木職員について、来年1月9日以降は週3日勤務として、引き続き職務を継続して頂く予定である。

3. 広報部会 (坂口・小宮)

1) 広報委員会 (坂口)

特になし

4. 学術研究部会 (辻森・ウォリス・星)

1) 行事委員会 (星)

・名古屋大会代替企画 (→全体報告へ)

2. 専門部会連絡委員会 (辻森)

- ・部会規則整備と年次活動を各部に依頼中。4月理事会で報告予定。
- 3. 国際交流委員会 (ウォリス)
  - ・交流学会へクリスマスカードを準備中。コロナの影響による郵便引受停止を受けて、モンゴル地質学会のみ今年はメールで対応する。
- 4. 地質標準化委員会 (辻森)
  - ・国際年代層序表の日本語版を最新に更新した (v2020/03)。それに伴い国際層序委員会 (ICS) のサイト上の日本語版も更新された。
- 5. 編集出版部会 (大藤・狩野)
  - 1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)
    - (1) 編集状況報告 (12月4日現在)
      - ・2020年投稿論文: 72 [内訳] 論説39 (和文39), レター 11 (和文9・英文2), 総説3 (和文3), ノート3 (和文2, 英文1), 報告7 (和文6, 英文1), 口絵1 (英文1), 巡検案内書8
      - 査読中: 32 受理済み: 18 (うち特集号7案内書2)
      - ・126巻11月号: 通常号 論説2篇, レター2篇, 報告1編, ノート1編 (57頁, 発行済み)
      - ・126巻12月号: 通常号 論説3篇, ノート1編 (約50頁, 入稿中)
      - ・投稿数増のための方策に関して, 以前からカラー印刷や超過ページの著者負担軽減の要望があるが, それらについては雑誌電子化で解決できると考えていると大藤委員長よりコメントがあった。
    - 2) アイランドアーク編集委員会(狩野)
      - (1) 編集状況報告
        - ・投稿数 (特にソフトロック系) が減少傾向にある。中国国内誌がSpringer & Nature系同様に充実し, 中国からの投稿数が減少していることが原因のひとつと分析している。
        - ・投稿者の誤解を少なくするために, WebサイトのAims and scopeの文章をもっと幅広い内容を含むものに変更した。
  - 3) 企画出版委会 (小宮)
 特になし
  - 6. 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)
    - 1) 地学教育委員会 (高嶋)
 特になし
    - 2. 地質技術者教育委員会 (佐々木)
      - ・JABEEオンラインシンポジウムについて (→全体報告へ)
    - 3) 生涯教育委員会 (矢部)
 特になし
    - 4) 地震火山地質こどもサマースクール (松田)
      - ・11月29日にWeb会議で実施された3学会 (地震, 火山, 地質) 連合企画会議に参加した。来年実施予定のサマースクール (浅間) の下見の報告等があった。再来年の開催地の公募の準備も進めている。
  - 7. その他執行理事会の下に設置される委員会

- 1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)
 特になし
- 8. 理事会の下に設置される委員会
  - 1) ジオパーク支援委員会 (委員長 天野)
    - ・「ジオパーク・コンソーシアム (仮称)」の設立について (→理事会審議事項へ)
  - 2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)
    - ・12/20に第13回日本地学オリンピック1次予選 (オンライン) が開催予定。
  - 3) 支部長連絡会議 (平田)
 各支部に支部規則 (特に表彰規則) の整備を検討依頼中。
  - 4) 地質災害委員会 (松田)
    - ・来年の1月14日に開催される「東日本大震災からの十年とこれから-58学会, 防災学術連携体の活動-」に地質学会として発表申込を行った。「東日本大震災後の古津波堆積物研究の現状と将来展望」(後藤和久: 日本地質学会理事 東京大学)
      - ・東日本大震災から10年の節目に, 学会からのコメントをプレスリリースする。会長, 中澤常務らと調整してコメント作成する。
  - 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)
    - ・委員の選出について (→理事会審議事項へ)
  - 6) 各賞選考委員会 (中澤)
    - ・各賞の推薦応募は12月1日で締め切った (→理事会報告事項へ)
    - ・各賞選考検討委員会委員の推薦について (→審議事項へ)
  - 7) 男女共同参画委員会 (委員長 堀 利栄: 代理 中澤)
    - ・男女共同参画委員会規則変更の提案 (→理事会審議事項へ)
  - 8) 法務委員会 (中澤)
    - ・学会行動規範の改定の検討を開始した。
  - 9) 連携事業委員会 (中澤)
 特になし
  - 9. 研究委員会
    - 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)
 特になし
    - 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)
 特になし

**審議事項**

- 1. 理事会審議事項及び資料確認
 資料に沿って, 理事会審議事項が確認された。
- 2. 各賞選考検討委員会委員の推薦について
 過去の学会受賞者から選考分野のバランスを考慮して8名を推薦し, 打診することとした。
- 3. シニア会員(仮)設置の検討について
 磯崎会長より会費の一括支払いで永年会員顕彰するなどの, シニア世代に向けた方策について提案があった。メールアドレスを発行するなど他にもいくつか意見が出された。会員増加策検討のためのTF (総務委員会報告参照) であわせて検討を進めることとなった。

2021年1月9日  
 一般社団法人日本地質学会執行理事会  
 会長 (代表理事) 磯崎行雄  
 署名人 執行理事 中澤 努

**2020年度第8回執行理事会議事録**

期日: 2021年1月9日 (土) 13:00~17:30

**【WEB会議】**

出席者: 磯崎会長・平田・佐々木・中澤・緒方・亀高・辻森・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部 (途中退出)・高嶋・岡田・ウォリス

欠席者: なし

事務局 澤木

\*定足数 (過半数: 9) に対し, 17名の出席

\*前回議事録 (20-7回) の確定。

**報告事項**

1. 全体的報告

・学会運営検討タスクフォース第1回会合報告 (中澤) (→審議事項へ)

・日本生態学会より自然史学会連合を通じて「気象庁による生物季節観測の変更の見直しについての要望書」提出 (20/12/28提出) に対する賛同の是非について確認があったが, 地質学とは異なる分野の要望書であり, 地質学会が責任をもって賛同する立場にはない。また今回は自然史学会連合としての要望書では無いことから, 特段に賛同の意は表明しなかった。

2. 運営財政部会 (緒方・亀高)

1. 総務委員会

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

・科学教育研究会第68回全国研究大会・福島大会 (21/7/31-8/2: 福島県伊達市) への後援依頼があり, 承諾した【→geo-flash, ニュース誌】

・令和2年度国土技術政策総合研究所講演会 (21/1/18: オンライン) の開催案内があった【→geo-flash, ニュース誌】

・産業技術総合研究所・地圏資源環境研究部門第33回GSJシンポジウム地圏資源環境研究部門 研究成果報告会「地圏に関わる社会課題の解決に向けて」(21/2/5: オンライン) の開催案内があった【→geo-flash, ニュース誌掲載】

・一般社団法人国立沖繩自然史博物館設立準備委員会では, 機関誌『ナチュラルヒストリー ミュージアム』を発刊の案内があった。

<会員>

1. 今月の入会者 (1名)

正会員 (1名): 佐藤和也

2. 今月の退会者 (なし)

3. 今月の逝去者 (3名)

名誉会員 (1名): 藤田 崇 (逝去日 20/11/16)



正会員(2名):古賀孝徳(逝去日20/4/1),  
白木敬一(逝去日20/10/16),土志田達治  
(逝去日20/11/11)

#### 4. 2020年12月末会員数

賛助:27, 名誉:42, 正会員:3373 [内訳  
正:3284, 院割:86, 学部割:3]

合計3442(昨年比-165)

#### <会計>

・学術著作権協会より2020年度の分配金の振り込みがあった(¥182,443).

#### <その他>

・会員管理クラウドシステム導入について,  
事務局と相談のうえ進んでいる.

#### 3. 広報部会(坂口・小宮)

##### 1) 広報委員会(坂口)

・フォトコンテスト作品募集中.  
・Q&Aコーナーに4件質問が寄せられている.  
順次対応中.

##### 4. 学術研究部会(辻森・ウォリス・星)

##### 1. 行事委員会(星)

##### (1)2021年学術大会(名古屋)について

・20年大会で開催予定だったトピックセッション(7件)について,世話人に再度開催の希望を確認した.全て開催希望.

・上記に追加する形で,ニュース誌1月号でトピックセッションの応募を行う.

・大会開催方法について(→審議事項へ)

##### 2. 専門部会連絡委員会(辻森)

・部会規則整備と年次活動を各部会に依頼中.4月理事会で報告予定.応用地質研究部会から部会規則,現行地質過程部会から年次報告の連絡があった.

##### 3. 国際交流委員会(ウォリス)

・台湾の地質学会より返信があり,5年間のMOU更新手続きが完了した(20/10/12付).更新に際して,両学会長のオンライン会談を予定(1/22).

##### 4. 地質標準化委員会(辻森)

・(IUGS)の国際層序委員会HPの国際年代層序表日本語版リンクも最新版に更新されていることを確認した.

##### 5. 編集出版部会(大藤・狩野)

##### 1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

##### (1) 編集状況報告(12月31日現在)

・2020年投稿論文:74 [内訳] 論説40(和文40), レター11(和文9・英文2), 総説3(和文3), ノート3(和文2, 英文1), 報告8(和文7, 英文1), 口絵1(英文1), 巡検案内書8  
査読中:27 受理済み:19(うち特集号8案内書2)

・126巻12月号:通常号 論説3篇, ノート1編(55頁, 発行済)  
・127巻1月号:通常号 論説3, レター1, 報告1(約65頁 校正中)

##### (2) その他

・オープンアクセスリポジトリ推進協会より学協会著作権ポリシーデータベース整備のための,機関リポジトリへの論文登録に関する方針の確認があった.

##### 2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

##### (1) 編集状況報告

・Willeyの方針で,2年後に無料でのオープンアクセス(OA)化をやめ,全て有料(20万円程度)となる.

・Vol.25(2016年)以降の論文について,OAとDL数,IFの相関について分析した.OAとDL数には相関があったDLが伸びても必ずしも引用されているわけではなく,OAとIFとの顕著な相関は認められなかった.

##### 3) 企画出版委員会(小宮)

特になし

##### 6. 社会貢献部会(松田・矢部・高嶋)

##### 1) 地学教育委員会(高嶋)

・大学共通テストの試験問題について,講評予定.ただし今年は追試を含め試験が3回実施されるため,講評作業は例年より遅くなる.

##### 2. 地質技術者教育委員会(佐々木)

##### (1) JABEEオンラインシンポジウム(名古屋代替企画)

・3月7日の開催に向け,予定どおり準備中.

・1月中に各講師による講演資料を集める予定.

##### (2) 委員会開催

・上記シンポジウムの進捗確認やJABEE地球・資源分野運営委員会の運営方法などについて検討するため,地質技術者教育委員会(WEB会議)を1月19日(火)に開催する予定.

##### 3) 生涯教育委員会(矢部)

特になし

##### 4) 地震火山地質こどもサマースクール(松田)

・2022年度開催地候補募集(募集期間:1/12-2/10).ニュース,メルマガ等で広報

##### 7. その他執行理事会の下に設置される委員会

##### 1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)

特になし

##### 8. 理事会の下に設置される委員会

##### 1) ジオパーク支援委員会(委員長 天野:代理 平田)

・昨年末に行われた再審査については,2月の日本ジオパーク委員会にて審議が行われ,結果が発表される予定.

##### 2) 地学オリンピック支援委員会(高嶋)

・地学オリンピックの一次予選がオンラインで2020年12月20日(14~15時)に実施された.50点満点中,平均は24.06点.受験人数は1,383人で,うち,一次予選通過は,212名.

・現在,一次予選問題の講評を地学オリンピック支援委員会で作成中.

・二次予選は2021年1月24日18時より,オンラインで実施予定(90分程度の予定).

・本選は2021年3月14~16日につくば市で行う予定(状況によりオンラインの可能性あり).

・一次予選の問題・解答・予選結果,得点分布は,下記よりダウンロード可能[https://](https://jeso.jp/jeso/pre.html)

[jeso.jp/jeso/pre.html](https://jeso.jp/jeso/pre.html)

・地学オリンピック日本委員会より,地質学会のリンク掲載(学会バナーの掲載)および今後の地質学会催事情報の掲載依頼があり,承諾した.

##### 3) 支部長連絡会議(平田)

・四国支部総会・講演会開催報告(12/5開催)

##### 4) 地質災害委員会(松田)

・防災学術連携体シンポは完全オンラインで実施することとなった.また事前登録者が多数あったため,急遽YouTube配信となった.

##### 5) 名誉会員推薦委員会(佐々木)

・12月28日に理事会と専門部会宛に候補者推薦の依頼を行った.推薦の締め切りは2月10日(水).

##### 6) 各賞選考委員会(中澤)

特になし

##### 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会(委員長 堀 利栄:代理 中澤)

特になし

##### 8) 法務委員会(中澤)

・行動規範の見直しを行なっている.

##### 9) 連携事業委員会(中澤)

特になし

##### 9. 研究委員会

##### 1) 地質環境長期安定性研究委員会(委員長 吉田英一)

特になし

##### 2) 南極地質研究委員会(委員長 小山内康人)

特になし

#### 審議事項

##### 1. 2020年度実績概要および2021年度事業計画骨子(案)の最終確認

文中の「(予定)」となっている箇所を順次変更するなど,軽微な文言の修正を確認した.

##### 2. 表彰制度見直しに係る学会運営規則及び各賞選考規則の改正案(賞名称と施行期日の確認)

以下2点について承認した.

・12月理事会で提案した「功労賞」を「功績賞」して再提案.従来の功労賞は「地質学会表彰」に吸収する.功労賞の名称は廃止.

・施行期日を総会直後の7月1日とした(ただし小澤賞, 柵山賞は来年2022年7月1日より施行)

##### 3. 学位授与機構からの機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構からの要請のあった専門委員(国立大学教育研究評価委員会専門委員および機関別認証評価委員会)候補者として4名の会員を推薦することとした.

##### 4. 学会としての新型コロナ対応方針の確認

「緊急事態宣言発令地域や県知事等による外出自粛要請が出ている地域での対面イベントは行わない」という趣旨のメッセージを会長

名でホームページに掲載する（1/9付けHP掲載）。

#### 5. 2021年学術大会（名古屋）の開催方法について

本年の学術大会を開催する方針を改めて確認し、開催方法について以下の通り検討した。

①2月の段階で、ワクチンの見通しが立つなどした場合は、従来型（対面）の実施を予定。そうでなければ、下記の2オプションで進める。

②7月初旬に緊急事態宣言などの発令がなく、9月のイベント開催が可能な場合は、シンポジウムや市民講演会等最小限規模での現地開催（於 名古屋大会）を行い、通常セッションはオンラインで実施する。

③7月初旬の判断として9月の現地イベント開催が不可能な場合は、全てをオンライン開催とする。

#### 6. 学会運営タスクフォース（TF）

TF第1回会合（12/25オンライン開催、メン

バー：佐々木、緒方、辻森、星、大藤、坂口、中澤）の内容に基づき、議論した。

・学会運営検討タスクフォースより、総務委員会に対して、会員管理クラウドシステム導入を早急にすすめるべきとの提言を行う。

・雑誌、ニュース誌の電子化について：学会の財政状況を鑑みて、地質学雑誌は早々に完全電子化の方向で進める。ただし、ニュース誌は学会の帰属意識維持のために、電子化はするが、紙媒体での配布もあった方がよい。また、地質学雑誌のJ-Stage無料公開は現状では3ヶ月後だが、即公開した方がよい。

・SNSでの積極発信を進めたい。倫理面の管理が課題となるため、広報委員会を主体に担当者の人選を進めて欲しい。

・企業、若手向けのオンラインショートコースなどの開催を常時行うようにする。

・院生会費の大幅値下げ、シニア会員の一括

会費など、総務委員会で実情把握、シミュレーションを進め、次回理事会で提案したい。

・シニア世代に向けた方策として、50年顕彰は良いシステムである。数年前からハガキなどで予告すると退会抑止に効果的ではないか。25年でも顕彰を実施してはどうか。

以上

2021年2月13日  
一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会長（代表理事）磯崎行雄  
署名人 執行理事 中澤 努